

2020年度 地域連携活動報告書

連携先名称：福島県相馬市

協定締結日：平成30年12月20日

活動状況：継続中

連携先窓口：福島県相馬市農林水産課 課長 古市浩次氏

活動資金：大学予算

担当教員(所属)：渋谷往男、半杭真一(国際バイオビジネス学科)、大島宏行(農芸化学科)

活動体制(単位)：大学

関連教員(所属)：上原、山崎(森林総合科学科)、中島(地域環境工学科)、足達(国際農業開発学科)

活動目的：東日本大震災からの農業復興

1. まちづくり及び人づくりに関すること

- ・福島イノベーションコースト構想「復興知」事業の一環として、市内で2020年11月6日に「経営セミナー」を開催。農大教員が講師を務める。
- ・福島イノベーションコースト構想「復興知」事業の一環として、市内で2020年11月7日に「6次産業化講習会」を開催。農大教員が講師を務める。

2. 自然、環境、産業及び地域振興に関すること

- ・相馬市からの要請で2020年11月に相馬市内にオープンした道の駅である「浜の駅 松川浦」を対象に半杭准教授がマーケティング調査を実施し市に報告。
- ・福島イノベーションコースト構想「復興知」事業の一環として、市内およびリモートで2021年1月10日に「活動報告会」を開催。農大教員7名が1年間の活動報告を実施。相馬市立谷市長、本学山本副学長も参加。

3. 教育・研究・文化の発展に関すること

- ・相馬市を中心とした本学の復興支援プロジェクトである東日本支援プロジェクトの10年を機に、本学が編集者となった書籍「東日本大震災からの農業復興支援モデル -東京農業大学10年の軌跡-」を出版した。巻頭には大澤理事長と相馬市の立谷市長の対談を収録した。

4. 就農及び就職支援に関すること

- ・特になし。

5. 前4号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な分野に関すること

- ・公益財団法人福島イノベーションコースト構想推進機構の「学術研究活動支援事業（「復興知」事業）」の申請にあたって、関係先自治体として協力をいただいた。

活動内容・成果：

- ・10年間にわたり継続して震災からの農業復興支援を行い、現地での農業が復興すると共に、新たな時代に即した経営体制を構築しつつある。
- ・高校生や社会人向けの人材育成プログラムを展開しており、成果を上げている。特徴的な例として、2019年度に開催した高校生向けサマースクールの参加者が本学の森林総合科学科に入学し、次世代の地域づくりのリーダーとして期待されている。

課題・改善点：

- ・特になし。

